

11月30日（土）、第4回景観まちづくりワークショップが行われました。今回は、第3回のワークショップで各グループが考えた、具体的なプロジェクトの内容に沿ったアクションプラン（誰が、どこで、何を、いつやるのか）をもとに、自分の立場で取り組める事や他の立場の方に取り組んで頂きたい事を考えました。

「まち並みづくり A」グループは、**〈新町と裏道から見た、自分たちが出来る事〉**として、住民が主要な主体者として、事業者・団体、大学との連携を図りながら、新町通りや路地等の清掃やマップづくり等に取り組んでいく事を考え、「まち並みづくり B」グループは、**〈空き地を活用する〉**として、空き地を活用するための組織の立ち上げを提案し、組織の運営のために必要な空き地を貸す側と使う側の意識について考え、更に、空き地を使う側の使い方を想定し、そこで自分たちに何が出来るかを考えました。

「にぎわいづくり A」グループは、**〈旧北谷横丁の空き地等を活用した、ふらい横丁の実現に向けて〉**として、所有者や借り手の意識の醸成や、所有者と借り手を結び、運営の支援を行うまちづくり会社の設立についての取組を考え、「にぎわいづくり B」グループは、**〈にぎわいづくりを進める上でのテーマと関係主体の取組を考える〉**として、食や歴史等様々なテーマについて、住民、団体、行政等が協働で行う取組を考えました。

各グループで出た内容については発表を行い、全4回の景観まちづくりワークショップは終了しました。



〈各グループの提案内容の主な概要〉

まち並みづくり A

新町通りと裏道通りを考えるプロジェクト

〈新町と裏道から見た、自分たちが出来る事〉

- 住民が中心となって、路地等の清掃や花を植え、手入れを行う等の活動に取り組む。
- 大学は、路地の資源等を調べ、マップを住民と共に作成したり、資源の活用の企画や、景観を考え作っていく活動に取り組む。
- 事業者や団体は、足袋蔵等の保存・活用の手助けをし、若者が溜まれる場としてカフェ等を作る。
- 行政は、上記の3者が活動し易い様に支援をする。 など

まち並みづくり B

たくさんの方がつどい・出会う

本町通り界わりプロジェクト

〈空き地を活用する〉

- 誰もが気軽に参加できる組織や機会が必要である。
- 空き地を貸す側は、資金面等の課題はあるが、雑草が生えるよりは、誰かに貸した方が良い。
- 空き地を使う側は、市内外の人がかつらげ、学生や住民がイベントを気軽に行える空間を作っていく。
- 住民は空き地の清掃や場所の提供、イベントの手伝い等をして、地元の意欲を盛り上げる。 など

にぎわいづくり A

旧北谷横丁 プロジェクト

〈旧北谷横丁の空き地等を活用した、
ふらい横丁の実現に向けて〉

- 初めに、住民、所有者の意識を把握し、更に、借り手の意識を醸成する事を住民と大学が担い手となり行う。
- 取組を進める上では所有者と借り手の間に入る組織が必要となる。
⇒まちづくり会社を作る
- まちづくり会社は、地域を良く知る人や商店街、大学等が運営を行い、経営支援や借り手のコンセプトの審査、PR活動に取り組む。 など

にぎわいづくり B

地域資源をつなぐネットワーク プロジェクト

〈にぎわいづくりを進める上での
テーマと関係主体の取組を考える〉

- 食（テーマ：以下同様）：B級グルメが集まる横丁を団体が作る。
- 空き店舗：住民、団体、行政で協議会を設け、活用を行う。
- 歴史：各時代をテーマに、お祭りの開催等を行う。
- 水：水辺の清掃を行い、住民や行政が水に関する取組を行うプロジェクトチームを作る。
- 童・銅人形：遊びが体験できる空間等を形成する。
- ネットワーク：マップやルートを住民、団体、行政が協働で作る。 など